

週刊

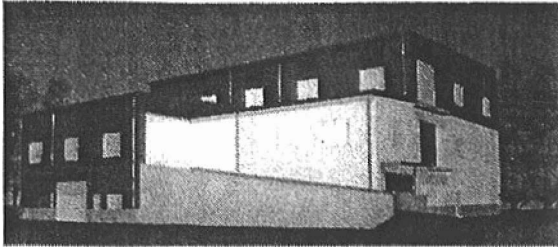
# 循環経済新聞

## The Recycling Economy Times

### 「紙おむつto紙おむつ」を事業化

## 8月にも大牟田で工場完成

### トータルケア・システム



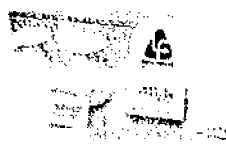
紙おむつリサイクル工場「ラブ・フォレスト大牟田」の完成予想図

トータルケア・システム 県、市、経産省から計2億  
 (福岡市、長武志社長、〒0 6000万円の補助を受け  
 92・433・1033) る。処理能力は日量20ト。用  
 は使用済み紙おむつのリサ 地面積は3200平方  
 イクル事業展開に伴い、大 大牟田市の構造改革特区満  
 牟田エコタウン(福岡県大 用第一号企業として、土地  
 牟田市)内に専門工場を建 開発公社から賃借契約で用  
 設する。8月内の完成、9 地を優遇されている。

処理の仕組みは、病院な  
 どから回収した使用済み紙  
 おむつを専用工場で裁断、  
 湿式分離槽に投入。粉砕・  
 振動などの工程を経て、パ  
 ルプ、不織布、高分子吸収  
 剤、PEフィルムに分離す  
 る。し尿や汚物を排水処理  
 した後の水も循環利用され  
 る。パルプは再び紙おむつ  
 の原料に、劣化したパルプ  
 や吸収剤を含む汚泥は土壌  
 改良材などに、不織布とフ  
 イルムは燃料に利用できる  
 ため、ほぼ100%の再生  
 率を達成したという。

商用化を目指し、同社は  
 福岡大学工学部の松藤康司  
 教授らと共同研究「ラブフ  
 オレストプロジェクト」を  
 進め、民間の田熊ブランド  
 などのほか、行政から補助  
 器具産業・科学技術振興財  
 団や福岡県保健環境研究所  
 などの支援を得ていた。2  
 002年には同大内に日  
 本初の実証装置を設け、  
 事業化の準備を整えた。

長社長によると、同様の  
 事例は、海外ではオランダ  
 で紙おむつの回収パルプを  
 段ボール原紙に利用する事  
 例があるが、回収パルプを  
 再び紙おむつに使用する  
 「おむつtoおむつ」リサイ  
 クルは、世界でも他に例が  
 ない、とのこと。高齢化が  
 進む日本で  
 は、紙おむつ  
 の需要は年間  
 10%以上増え  
 ており、生産  
 量は年間34万  
 トにも上って  
 いる。



紙パルプやプラスチックなどの回収サンプル

トータルケ  
 ア・システム  
 は01年に医療  
 ・福祉用品を  
 取り扱うケア  
 ・ルートサー  
 ビスやウタキ  
 ユーセイモ  
 ア、紙おむつメーカーのユ  
 ニ・チャーム、福岡県内の  
 医療機関9病院などが共同  
 出資、設立した新会社。焼  
 却処分代替わる環境配慮型  
 事業として、紙おむつの納  
 入、回収、運搬、再生品の  
 販売まで対応したネットワ  
 ークの構築を目指す。